事業番号	10 09 03	事業改善シート(24年度実施事業分)		予算要求 🗆]予算案 ■点検
事業名	2utz <<< 2	建築物応急危険度判定体制の整備事業費	-	部局	建設部
尹 未 乜	192 92 8	主架初心心心灰及刊に平向り金加事未有	担当	課·室	建築指導課
<参考>	プロジェクト		課	E-mail	kenchiku@pref.nagano.lg.jp
総合5か年	施策の総合的展	□ 4-1 地域防災力の向上			
計画	旭泉の総百印版	4 災害に強い地域づくり		実施期間	H7 \sim

1 事業の	概:	要							
目指す姿		震よって被災した建築物等の危 確保を図る。	立険性を訓	周査、判定する体制	引を整備し、余震等による	建築物の倒	壊や落下物等	等の危険から 県	民の安全
現状	末	災時において、応急危険度判が現在1,226名の判定士が登録さ 以要がある。	れている	。また、いつでも半	川定活動を行うことができ	るように判定:			
県が関与 する理由	THE TO TENT OF THE PROPERTY						芯急危険度		
		成果目標(H24) 応急危険度判定士数の増加 応急危険度判定士の判定技術 事業内容	fレベルの)維持向上				(ij	单位:千円)
		項目	実施方法		H24事業実績		H (当初)	(決算)	H25 (当初)
	1 応急危険度判定士の養成 直接 ・応急危険度判定士養成講習会の開催(年10回)		F10回)	273	273	273			
		2 応急危険度判定士の判定 技術レベルの維持向上	直接	・判定模擬訓練の開催(年1回)			5	2	5
事業内容		3 応急危険度判定実施体制 の整備	直接	・判定資機材の購入・備蓄			0	0	250
		4 全国被災建築物応急危険 度判定協議会	負担金	•全国被災建築物	京心急危険度判定協議会	への参加	45	45	45
						合計	323	320	573

	区	区 分(単位:千円)		22年度	23年度	24年度	25年度
	_	前年度繰越 当初予算		0	0	0	0
	予算			427	323	323	573
事	額		補正予算	0	0	0	0
業			合計(A)	427	323	323	573
			国庫支出金	0	0	0	0
⊐	Aの		県 債	0	0	0	0
_	財源	į	その他(使・手)	427	323	323	573
ス			一般財源	0	0	0	0
١	決	Ĵ	草 額(B)	263	279	320	
	概 第		職員数(人)	0.50	0.50	0.50	0.50
			概算人件費 (C)	4,159	4,129	4,129	4,129
	概算事業費(B(A)+C)		4,422	4,408	4,449	4,702	

成果目標の達成状況						
項目	現況 (見込)		H25			
グロ		目標	成果	達成状況	目標	
判定士数	1,226人	1,300人	1,323人	達成	1,400人	
養成講習会の開催 回数	年2回	年10回	年10回	達成	年10回	
判定模擬訓練の開 催回数	年1回	年1回	年1回	達成	年1回	

目標に対 する成果 の状況

平成24年11月から平成25年2月にかけて県下10会場で計10回の判定士養成講習会を開催することで、判定士数及び講習会開催回数の目標を達成した。また、平成24年10月に被災建築物応急危険度判定模擬訓練を上田市で実施し目標を達成した。

今後の事業の方向性

今後、事業
をどのよう
にしていき
+-11+
たいか。

□ 事業を見直して実施 ■ 事業を現行どおり実施 □ 事業を実施しない

平成25年度は、応急危険度判定士数1400人の確保に向けて、判定士養成講習会を年10回開催する。また、判定士の技術レベル維持向 上のため判定模擬訓練を年1回開催する。

平成26年度以降も、応急危険度判定士の確保と判定士の技術レベル維持向上を目指して、講習会や模擬訓練を開催する。